

2009年5月

森永乳業の育児ニュース『エンゼル 110 番レポート第 57 号』発行 「不況に負けない！ママの明るい節約術」 ———100人のお母さんに聞きました———

森永乳業株式会社(港区芝 5-33-1、社長:古川絃一)は、時代とともに変わりつつある母親像の理解に役立つことを願い、1993年4月から「エンゼル 110 番レポート」を発行しております。この「エンゼル 110 番レポート」は、育児相談窓口「エンゼル 110 番*1」への相談内容から、毎回育児に関する傾向についてまとめています。

*1 「エンゼル 110 番」は、「子育て奮闘中のお母さんたちのために何かお役に立てることは…」と考え、1975年5月に開設した無料の育児相談窓口です。

昨年の秋以降、連日のように報道される「不況」のニュース。家計を預かる主婦にとっても大きな関心事です。「エンゼル110番」では、今回の不況が、子育て世代の家計にどのような影響を与え、それに対してママたちがどう対応しているのか、電話による調査を実施しました。その結果からは、不況の影響の有無に関わらず、節約志向を強めているママたちの姿が浮かんできました。

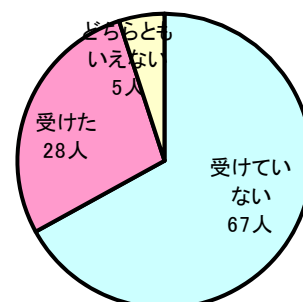
調査内容

不況の影響があった人は3割

「家計収入に不況の影響を受けたかどうか」をたずねたところ、「受けた」と答えた人は100人中28人で、残業代やボーナスの減少、休日の増加などで、「収入が減少した」という声がありました(図1)。

約7割の人は「受けていない」と答えています。が、「収入に影響はないが、物価が上がったように感じる」「夫の会社では、給与やボーナスがカットされそうな空気があると聞いた」などの声があり、収入の減少には至らないものの、何らかの形で不況の影響を感じている人が少なくありません。

図1 家計収入に不況の影響を受けましたか？(N=100)



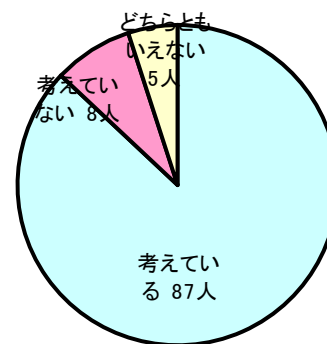
節約するのは「当たり前のこと」

次に、「節約を考えているかどうか」を聞いてみました(図2)。その結果、100人中87人が、「考えている」と回答。最初の質問で「不況の影響を受けていない」と答えた67人に限ってみても、9割近い人が節約を考えていると回答しています。その理由をたずねてみると、「ムードとして節約しなければと思う」「不況のニュースを聞いて不安になったから」と答えた人が、10人近くいました。収入が減ったかどうかということよりも、雇用不安や消費低迷を伝えるニュースに心理的な影響を受け、それが「節約」という行動につながっているようです。また、「不況に関係なく、日ごろから節約を心がけている」という声もありました。

「節約を考えていない」と答えた人からは、「もともと節約しているので、あらためて思わない」という声が聞かれるなど、毎日の暮らしの中で節約を心がけるのは、当たり前のこととしているママが多いことも伺えました。

一方、「どちらともいえない」と答えた人からは、「節約はしたいが、実際には無理。赤ちゃんのことを考えるとエアコンも使わざるをえない」という声(がある一方で)の他に、慣れない子育てに奮闘するママにとっては、「赤ちゃんのことで精一杯。ほかのことは考える余裕がない」のも現実のようです。

図2 節約を考えていますか？(N=100)



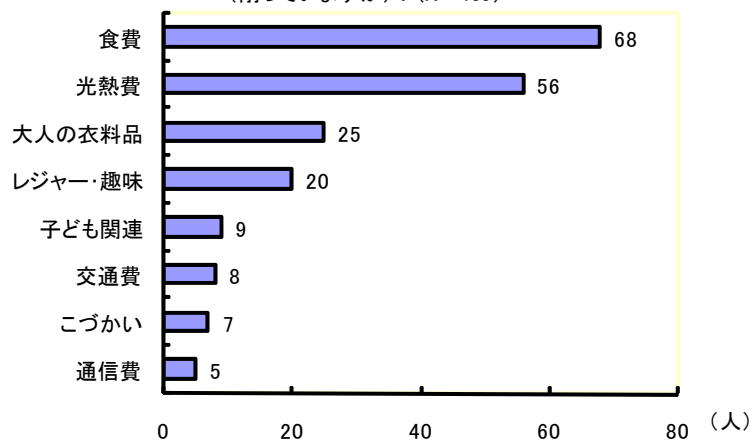
削るのはまず外食費

「節約するとしたら、何から削るか(削っているか)」を、聞いてみました(図3)。もっとも多かったのは「食費」の68人。続いて「光熱費」56人、「大人の衣料品」25人、「レジャー・娯楽」20人となりました。

「食費」と答えた68人のうち、27人が「外食を減らしたい」としており、「不況時に最初に切り詰められるのは外食費」という通説を実証した形になりました。

2人に1人が「食費」「光熱費」を節約しているのに対して、「衣料品」「レジャー・娯楽」を節約している人は4～5人に1人の割合です。不況で外食は減らしても、おしゃれや余暇は削りたくないという気持ちがあるのかもしれませんが、また、子どもが生まれた時点で、すでに、お洒落や余暇への出

図3 節約するとしたら何から削りますか(削っていますか)？(N=100)



費は控え目になっているということもあるでしょう。

「子ども関連」の出費については、「抑えるのは難しい」という声がありましたが、(一方で、)「紙おむつを布おむつにした」「子どもの服はほとんどもらいもので済ませる」など、昔ながらの子育ての知恵が見直されている様子も伺えました。

ママのとっておき節約法

最後に、「とっておきの節約法」についてたずねました。

もっとも実践している人が多かったのは、「使っていない電化製品のコンセントは全部抜く」「野菜は皮も利用する」「風呂の残り湯を洗濯に使う」などの基本的な節約法。環境保護への関心の高まりを背景に、電気代や水道代節約のためのノウハウが浸透しているのかもしれませんが、誰にでも取り組みやすい節約法といえそうです。

また、「見ると欲しくなるので、買い物には極力行かない。外出も控える」と、行動半径を狭めることで出費を抑えているという人がいる一方で、「家にいるとテレビを見たりしてお金がかかる。公共施設に出かけて時間を過ごす」と、逆の発想で節約を実践している人もいました。

さらには、「三世代同居で家賃を浮かす」「三輪車など大きい買い物は祖父母に買ってもらう」「実家で生活用品をもらい、食事もごちそうになる」など、祖父母世代をあてにするちゃっかり派もいました。

収入に影響を受けていない人が多数派だったこともあったためか、節約といってもそれほど差し迫ったものではなく、多くのママたちが、むだを省いて「賢く節約」している様子が伺えました。同時に、決定打といえるような節約法もないというのが現状といえそうです。

調査の概要

- 対象 : 「エンゼル 110 番」に電話をいただいた子育て中のママ 100 人
- 調査方法 : 電話による聞き取り調査
- 調査期間 : 平成 21 年 3 月 5 日～4 月 9 日
- 対象者の属性 : 「母親の年齢」 20 代…24 人、30 代…73 人、40 代…3 人
「母親の職業」 有職…24 人、無職…76 人
「子どもの年齢」6 ヶ月未満…54 人、1 歳未満…25 人、2 歳未満…17 人、
3 歳未満…4 人
「子どもの性別」男の子…39 人、女の子…61 人
「居住地」 首都圏…63 人、首都圏以外…37 人

【HOT VOICE】 *アンケートにお答えいただいたお一人お一人の声を集めました。

『ママのとおき節約法』

- ・布おむつを使う、野菜の皮はポタージュにする、ティッシュの空き箱を子どものおもちゃにするなど、いろいろ工夫している。食費は毎月いくらと決めて封筒に入れ、それ以上は使わない。(33歳/7カ月/無職)
- ・加湿器をつける代わりに、洗濯物を部屋干しにして、電気代を節約している。でも、暖房や入浴回数は減らしたくない。(34歳/5カ月/無職)
- ・一時期しか使わないベビーバス、ベビーカーなどは、レンタルするか友人に譲ってもらう。赤ちゃんの衣類もすべてもらいもの。(35歳/3カ月/育児休業中)
- ・外出を控え、遊びに行くときはお金のかからない公園に。パパにはお弁当を持っていってもらう。(28歳/1歳1カ月/無職)
- ・買い物は週1回にして安いスーパーでまとめ買いをする。計画を立てて、むだなものは買わない。(40歳/2カ月/無職)
- ・友人がネットオークションで安く買い物をしているので、私もやってみようと思っている。(26歳/3カ月/育児休業中)
- ・コーヒーは外で飲まずに家でインスタントを飲むなど、大人ががまんできることからやっている。(37歳/1カ月/無職)